

## 観光庁政策顧問会議（第2回）議事概要

1. 日時 平成23年1月17日（月）13:30～15:00

2. 場所 合同庁舎2号館16階 観光庁国際会議室

### 3. 出席者

#### 【委員】

大塚 陸毅 氏、川淵 三郎 氏、日枝 久 氏、森 稔 氏（五十音順）

#### 【観光庁】

小泉国土交通大臣政務官、溝畑長官、田端観光地域振興部長、天谷総務課長、鈴木総務課企画室長 ほか

### 4. 議事

- (1) 開会
- (2) 政務官挨拶
- (3) 観光庁からの説明
- (4) 意見交換
- (5) 閉会

### 5. 委員からの主な意見等

<インバウンドの施策について>

○訪日外国人旅行者が、チープなスケジュールの提案に沿った旅の結果、不愉快な思いをして帰っていることもあると聞く。その結果、日本の平均的な情報が発信されず、リピーターが育たない可能性がある。2,500万人まで訪日外国人を増やすと当面の人数に拘っているが、非常に注意が必要。日本の旅行代理店が、積極的に富裕層を押さえ、そうした人達にリピーターとなって貰い、日本の良さを発信して貰わねばならない。

#### 【日枝委員】

○訪日外国人旅行者は、まず東京に着いてから地方に行っており、観光立国のためには、観光都市として東京に大きな構想を持つ必要がある。世界が注目するエンターテインメントを東京で作るという総合的なプロデュースのもと、トータルに東京をアピールしなければならない。【日枝委員】

○誰でもよいから観光客を呼んで来て人数を稼ぐという取組は、経費がかかるばかりで効果がない。影響力のあるトッププレイヤーを呼び込んで興味をもって貰うことの方がはるかに効果的である。トップレベルの外国人が多く住む都市が観光で成功しているという点にも注意すべき。そのためには、世界で一番と言える資質を持った観光資源を持ち、どうPRして、どう安全に来訪して貰えるかが問われる。沢山

連れてきて沢山通り過ぎていく様な観光はやらない方がよい。【森委員】

○文化観光というと、すぐ歴史や伝統を連想しがちだが、本当に人々を惹きつけているのは、芸術や音楽といった現代のアートや情報であり、積極的にアピールしていかなければならない。仕事目的のグローバルプレイヤーが集まるのは、現代の情報の中心となる都市であり、そういう人々に観光して貰うというアプローチの方が普通である。【森委員】

○観光政策は、歴史や文化だけでなく、ダイナミックなエンターテイメントにも注力すべき。神社仏閣だけが観光とならないよう、街並みも含めた総合的な観光都市・東京として、理解を広めなければならない。【日枝委員】

○スポーツだけでなく、いろいろな分野にアワードを設定し、イベントを開催して、世界のメディアを集め、情報発信されることで注目を引くようにすべき。わざわざお金をかさなくても人が来てくれる。政府でお金を出し、それで足りなければ、いろいろスポンサーを付ければよい。額も大きければ大きい程、世界で話題になる。【川淵委員】

○資料では、どの分野でどの国の人々がどれだけ消費したかが読み取れない。やはり観光立国はどれだけお金を落として貰うかが大事であり、人数を重視して沢山の人を呼んだ結果、観光地が駄目になったという話はよく聞く。【森委員】

○3月には、九州新幹線が全通することもあり、外国人は、青森から鹿児島まで新幹線で行くことができるようになる。また、首都圏は鉄道ネットワークが整備されているので東京周辺の近郊観光地へも安価かつ安全にアクセスできる。こうしたことを上手にPRしなければならない。【大塚委員】

○日本に行きたくなるような、日本が見たくなるような情報発信をしないと人は動かない。日本を訪れた方に、帰国後、口コミで情報を発信してもらうことが重要。その意味で、発信力のある人に来てもらうMICEは非常に重要。【大塚委員】

○MICEは非常に重要だが、会議自体はきっかけにすぎない。会議だけで終わらせずプラスアルファでどのように日本で過ごしてもらうか考えることが重要。外国人観光客が日本国内のどういうところを訪れているのかを調査し、それを上手く組み合わせ情報発信する企画力が問われる。地域の中で、伝統的なものも現代的なものも、幅広く取り上げるような情報発信が重要である。【大塚委員】

○情報発信の方法として、ワールドカップやオリンピック等のイベントは、一番力のある発信の仕方だが、アジアにも大スポンサーがつくようになり、今は昔ほど「アジアなら日本」とはならなくなっている。昔の延長で世界のトップの大会をただ狙うのではなく、ジュニアクラスの大会にもシフトし、若い人に日本を認知して貰う

ことが必要。【川淵委員】

○MICEは、トッププレイヤーが集まるという点で重要。その結果、さらに多くの人が集まり、お金も情報も集まる。観光政策もよい国を作ることの一環であり、沢山来て貰うことだけが目的ではない。【森委員】

#### <国内旅行の施策について>

○豪州では、職員が長期休暇を取った場合、仕事をカバーした他の職員に給料を上乗せして支払う制度があると聞いた。財源などの難しい問題もあるが、休暇取得を促進する何らかのインセンティブが必要。【川淵委員】

○休暇については、休もうというムードができていないところに原因があるのではないか。ワークライフバランスの視点から、休暇取得の促進がよいことだというムードを作っていかなければならない。【大塚委員】

○今は、若者が旅行に行きたくなるような動機が無いのではないか。卒業旅行にも行かない時代になっている。全く別の視点だが、海外、特に欧米から日本への留学生を増やすことは海外に日本のファンを増やすという点からも効果がある。地道ですぐには効果が出ないが、しっかりと取組む必要がある。【大塚委員】

○10-20代でスキーをする者は非常に少ない。経験がなく、スキーの醍醐味が分からないからではないか。集中的にキャンペーンを展開して、若者をスキー漬けにするようなこともやってみる価値はある。【大塚委員】

#### <観光行政一般>

○観光はここ1-2年で今までにないほどムードが盛り上がってきており、これからの国の成長の柱とする姿勢が見え始めている。この盛り上がりの中、何か具体的な成果を出していかないと、観光立国の火が消えてしまう。他の役所や民間、特に国会議員にもそういう意識を持って貰いたい。また、新しい国交大臣にも、是非、観光の重要性をご理解いただけるよう取組んで欲しい。【大塚委員】

○観光庁は、独自でやれることのみを懸命に行うのではなく、各省庁を代弁し、あるいは引っ張り出して頂きたい。そうすると、自ずから観光庁に予算を付けてもっと働いて貰おうとなる。どの分野でもどんどん引っ張り込んで、観光庁の予算でやるという気概を持つべき。【森委員】

○来年度予算でMICE予算の計上が見送られ、ビジットジャパン事業が減額されたことは遺憾である。今年度増額されたといっても、世界各国と比べれば微々たるもの。【森委員】

以 上